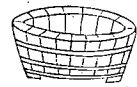
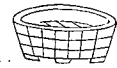


〔女用訓蒙圖彙一湯殿具〕手盥てだらひ〔醒睡笑五〕人はそだち

山中に殿あり、國中にてさもとらしき武家より嫁をよぶに、おつぼねの中のおはしたとのな
どありく、と供し、祝言事すめり、二日三日たてども、終に行水とも風呂とも沙汰せず、ものまか
なへる形部左衛門といふをよび出し、つぼねちとお洗足をお出しあれと申されしかば、形部か
しこまり候、そのよし申させんとて、座をたち、年寄衆に皆よられよ、つぼねよりおほせられ候と
ふれたり、何事ぞとあつまりたる座にて、別の事になし、お洗足といふものを出せとなり、此返事
いかせん、と、だんがうさまく、なりしあげくに、一のおとないひけるやう、一亂にうせたと申
されよ、此儀天下第一の思案といつて、つぼねへお洗足を出せと候へども、一亂にうせて御座ない
と、局き、もあへず、あらけうこつやと申されけり、形部けうこつといふも聞えらねば、またむつ
かしきことやおもひ、いやけうこつも御洗足と一度にうせておりないと、

山家に入聲が市に出用をと、のへ、日のくれてより、玄うとの許に立よる、舅まづせん、そくをま
ゐらせよとあれば、せんそくを夕めしの事と合點し、此方にてはやせんそく、いたいたと、さらば
あんどをまゐらせよといふ、これもあんどをえらねば、くひもの、事やおもひ、これはか
かるお時宜あんどを給はる程ならば、せんそくをこそたへうすれ、

〔女中道具之沙汰〕みづしだな置物之事

あし。あら。ひ。み。、だら。ひ。も。一。ツ。是。は。い。づ。く。に。な。り。と。も、